

◆三十七番（粒谷友示） （登壇）議長のお許しをいただきましたので、自民党奈良を代表いたしまして代表質問をさせていただきます。

次に、リニア中央新幹線の整備促進についてお伺いいたします。

本年八月二日、リニア中央新幹線の全線開業を最大八年間前倒しをすることとなりました。これを受けて、鉄道建設・運輸施設整備支援機構に融資機能を持たせる改正法が成立、施行され、今年度と来年度に一・五兆円ずつ、総額三兆円を予定しているJR東海の融資について、十一月二十九日に第一回目として五千億円が融資実行されました。このように、政府とJR東海が全線開業の前倒しに向けて具体的に動き出したことは喜ばしいことでございます。

リニア中央新幹線の整備促進のためには沿線の地方自治体が果たすべき役割は非常に大きく、地方自治体とJR東海との協力連携が何よりも重要であります。こういった観点から、奈良県としてもJR東海との協力・連携に向けた準備を十分するべきであると思いますが、一点目として、リニア中央新幹線の整備促進に向けた各種調査の進捗、現在の県の取り組み状況について知事にお伺いいたします。

二点目は、ことしの五月に京都の蹴上に行ったときのことでございました。京都にリニアを誘致する、こんな大々的なイベントがございました。私は職員さんに向かって、リニア中央新幹線中間駅は奈良で決まっているのではないですかというようなことで、いろいろとやりとりをしました。最後に言われたことは、奈良県は内輪もめしてゐるのではないですか。陣地の取り合いをしているじゃないですか。このようなことを言われました。奈良県では大和郡山市、奈良市、生駒市と、それぞれの首長さんが我が町にウエルカムということは当然理解できます。しかしながら、京都から見れば内輪もめ、我田引水的に思われては元も子もありません。リニア中央新幹線の中間駅の位置は政治的な配慮や地域の利益誘導で決まるものではない、私はこのように思っております。そこで駅位置の早期確定に向けて、県が中心となって奈良県全体が一丸となって取り組んでいる姿勢を強くアピールする必要があると思いますが、知事のご所見をお伺いいたします。

次に、北陸新幹線の敦賀・大阪間のルートについてお伺いいたします。

現在、与党のPTの検討委員会において議論がなされているところでございますけれども、北陸新幹線、敦賀・大阪間のルートに関して、一部に学研都市駅とリニア中央新幹線の奈良市附近駅との接続を主張されている方がいらっしゃいます。奈良県としてリニア中

央新幹線の三重・奈良ルート及び駅位置の早期確定に向けて全力で取り組むべきだと考えております。知事も検討委員会の関係自治体ヒアリングに出席され、北陸新幹線の学研都市経由ルートについて、財政負担に見合うメリットがないことに加え、リニア中央新幹線との接続の観点からも反対されたと聞いておりますが、知事にその真意をお聞かせ願いたいと思います。

◎知事（荒井正吾） （登壇）三十七番粒谷議員のご質問がございました。

次は、リニア中央新幹線についてのご質問がございました。

まず、これまで県が行っております各種調査など取り組みの進捗についてのご質問がございました。議員お述べのとおり、財政投融资の活用・工夫によりリニア中央新幹線の全線開業を最大八年間前倒しするとの方針のもと、国におきまして財務面や法制面の手当てが進みまして、JR東海に対する貸し付けが迅速に実行されました。ありがたいことだと思っております。これによりまして、平成三十九年の東京・名古屋間開業後、連続して速やかに名古屋・大阪間の工事が着手されるということになってまいりました。地元自治体としても、ルートや駅位置の早期確定や工事の円滑な実施に向けて準備を加速する必要があるかと思っております。

県ではリニア中央新幹線の早期整備に向け、国などへの要望活動をさらに効果的に実施するとともに、将来、JR東海から協力を求められた場合に、十二分な役割を果たせるように先行的な調査を行っていきたいと思っております。今年度は、JR東海が今後実施する環境アセスメントを見据えまして、県内の動植物の生息状況等について調査を行うこととしております。六月末に業務委託契約を締結し、来年三月末に調査結果を取りまとめることにしております。もちろん最終調査ではございませんが、一步一步のステップアップの調査として役に立つことを期待しております。

これらは、JR東海がリニア中央新幹線のルートを検討される際に参考になると考えられる要素でございます。県において先行調査を行うことで将来のJR東海の検討がスムーズに進められるように、準備期間が少しでも短縮されるように地元県として準備を進めていきたいと考えているところでございます。

リニア中央新幹線の今後の展開につきまして、奈良市附近駅の位置の確定についての議論がされました。いつ、どのように奈良市附近駅が確定できるのか、三つも候補地があって集約化できないのかという趣旨のご質問かとお理解させていただきます。

リニア中央新幹線の奈良市附近駅の位置につきましては、JR東海が実施いたします環

環境影響評価の手續の過程で、超電導リニアの技術的な制約、地形・地質、あるいは土地利用や文化財といった立地環境の制約によってルートとともにおのずと絞り込まれてまいるものと理解しております。また逆に、環境影響評価が進まないと駅の位置の確定も難しいものと考えられます。したがって、環境影響評価の手續に一日も早く着手することによりまして駅位置を早期に確定していただけるよう、奈良県全体が一丸となり、また隣接する三重県、大阪府ともさらなる連携の強化を図り、経済界、地域の皆さんとスクラムを組んで粘り強く要望活動を重ねていくことが何よりも重要であると考えております。

本年九月に本県橿原市におきまして、三重県と共同開催いたしましたリニア中央新幹線建設促進会議におきましては、前回に続きまして、関西広域連合長であります井戸兵庫県知事、また大阪府副知事の新井副知事にご出席いただきましたし、関西経済連合会理事の辻さんにもご出席を続けていただいております。三重県、奈良県、大阪府という三重・奈良ルート沿線の協力体制の充実が図られてきたことに意を強くしているところでございます。十二月末には九月の促進会議で採択いただいた共同アピールをもとに三重県、両県経済界とも連携して、国土交通省、与党幹部等に対し、改めて要望活動を展開してまいりたいと考えております。

それとの関連もございしますが、北陸新幹線のルート問題が今、与党で検討中でございます。本県も招かれて意見の開陳の機会がございました。その内容、真意についてのご質問でございました。

北陸新幹線の敦賀・大阪間のルートでございますが、昨年八月より与党の北陸新幹線敦賀・大阪間整備検討委員会で検討され、現在、与党案決定に向けた最終、大詰めの議論がなされている段階でございます。その検討委員会で、国土交通省より十一月十一日、金曜日に報告されました所要時間、路線延長、概算事業費、需要見通しなどの将来の着工の判断に資する項目の調査結果を踏まえ、関係自治体へのヒアリングが行われました。十一月二十四日には私が出席し、奈良県としての意見をお伝えしてまいりました。改めてお伝えした意見についてご報告を申し上げます。

学研都市経由ルートというのがございしますが、敦賀・大阪間のルートが京都駅から南下するルート案でございます。学研都市付近、精華・西木津地区を経由するという案がまず出ております。そのような経由の案につきましては、ルートの一部に奈良県域を含むとされておりますので、本県の意見を求められたわけでございます。このルートは、本県に相当程度の財政負担が発生する可能性があります。駅がなくても線路があると、その当地で工事費を負担するというスキームになっているからでございます。五キロメートル程度県内を通過いたしますと、県の真水の負担は百五十億円程度になると試算いたしております。

また奈良県から北陸に向かう場合のアクセスでございますが、近鉄またはJRで京都に出るのが一般的でございます。京都通過というのが一つの大きな要素でございますが、奈

良県民にとりましての学研都市付近駅、精華・西木津地区というのではアクセス性が悪くて、先ほど申し上げました財政負担の額に見合うメリットはないものと考えました。したがって、学研都市付近、精華・西木津地区経由案は奈良県として受け入れられないということを申し述べさせていただきました。

また学研都市を経由するルートに関しましては、リニア中央新幹線との接続をする議論がございます。奈良市附近駅と、こう書いておりますのに、奈良市附近が相当北に行って奈良市附近の考え方が崩れるようでは大変困るというふうに思っております。

リニア中央新幹線は、東海道新幹線とできる限り離すことで我が国の大動脈のリダンダンシーを確保し、強靱化することが肝要だというのが基本でございます。学研都市をリニア中央新幹線の経由地とすることは、奈良市附近を主要な経由地とする国の整備計画に反するばかりか、全国新幹線鉄道整備法の本質からも大きく逸脱すると申し述べました。

学研都市でまた北陸新幹線と接続しても、リニア中央新幹線と北陸新幹線の乗りかえ需要に具体性がなく、ネットワークとして意味がないということも申し述べました。

また他方、新たな奈良県構想をお伝え申し上げました。それは、奈良市附近駅で北陸新幹線南下線とリニア中央新幹線を接続させ、さらにそれを県内を延伸させ、関西国際空港と直接結ぶのであればインバウンド需要を取り込むネットワークの価値を飛躍的に高めることができるという意見でございます。関西国際空港に着かれた方が最短の距離であれば二十分程度で奈良市附近駅へ新幹線で到着することができます。多少迂回をすれば、もう少し時間がかかりますが、関西国際空港インバウンドにつきましては、北陸新幹線に向かうルートとして関西国際空港着北陸へ向かうルートは、北陸の先生からは賛成だという意見がその場でもご発言がございました。また、リニア中央新幹線に関西国際空港インバウンド客が奈良市附近駅で接続するというネットワークの効果もあるという意見を申し述べたわけでございます。さらに将来、四国新幹線と関西国際空港から地下で延伸して接続することができれば、四国地域へのアクセスを強化し、四国地域の振興・発展に大きく寄与できるという意見を述べさせていただいたところでございます。

以上が北陸新幹線についての奈良県意見の概要でございます。

◆三十七番（粒谷友示）

次に、リニア中央新幹線の問題でございますけれども、知事がリニア中央新幹線のJR東海に対するプレゼンテーションをするに当たって、いわゆるアセスメントをまずやると。そして手ぶらで行けないので、上京をなさるときなのですけれども、やっぱり知事が運輸省時代に新幹線の仕事にかかわっておられたという経験でしょうね。何もなしでリニ

ア中央新幹線に来てくれというのではなしに、まず、それぞれが先行して、地域が汗を流してJR東海にプレゼンテーションをするということは、確かに理にかなったやり方だと私も感心しております。

一方で、京都の方と私、蹴上で相当やり合ったのですけれども、基本的にリニアと新幹線というのは大動脈の中でいかに災害のリスクを少なくするかということになっているのが原則だと思うのですね。そのリニアと新幹線をそばに持つてくるというのは、これは論理的にも基本的にこのリニア中央新幹線のもともとのそもそも論は違うと私は思うのです。そういう意味では、京都というのは非常にやからというのでしょうか、嫌がらせのような、ほんまわけわからないようなことを言っているのと違うかということではなかつたのですよ、はっきり言ってね。ただ、残念ながら京都から言われて、奈良県が、この三人の市町村長さんが一生懸命やられるのはわかるのですけれどもね。我田引水的なことにとらまえると大変残念だなと思っているのですよ。

知事が以前に予算審査特別委員会で答弁なさったことを思い出して、我田引鉄、鉄道の鉄ですね、になってはいけないと知事はおっしゃいましたね。知事が非常に尊敬されているというんですか、角本良平さんという方、この方がいろいろなことをおっしゃっている中で、私、大変いいことをおっしゃっているなと思うのがあります。過去にこの方が新幹線をつくるに当たってリスクな部分がたくさんあったと。地域の需要を含めて、あまり自分らの我田引水になつたらいけないということですね。

確かにそうだなという思いがあるのですけれども、先般、ちょうど一昨日ですか、竹本直一衆議院議員が荻田議員の講演会に来られていましたので、長い間いろいろとお話ししていたのですけれど、やっぱり竹本議員も非常に好意的だったです。三重・奈良ルートというのは非常に好意的にお話しされていました。今度、議員連盟でも川崎二郎衆議院議員を筆頭に、奈良県、大阪の皆さん方で占めて、京都はちょっとご遠慮願うという形になってましたね。そういう意味では非常に奈良県にはいい感じのものなのですけれどもね。竹本議員も、奈良県はもうちょっと心をつにしたいほうがいいよと。やっぱり外から見たらちょっとそういうニュアンスにとられますよという話がありましたので、特に奈良県はオール奈良、チーム奈良というような感じで、ひとつ、ぜひ知事のリーダーシップでまとめ役をお願いしたいなと思っております。

◎知事（荒井正吾） 所見とともにご質問もございました。

リニア中央新幹線の関係でございますが、おっしゃったように、新幹線との並行リニアというのはリダンダンシーの関係からあまり意味がないと、そのとおりだと。クロスリニアというのは奈良県が初めて南北新幹線に、新幹線は全部列島に並行して走る列島縦断新幹線でございますが、京都から南に行く路線として、単なる構想でございますが、横断新

幹線構想を出しますと、リニア中央新幹線とのクロスというのが初めて出てまいります。角本良平さんという国鉄のOBの方でございますが、ことし亡くなられました。素直な気持ちで計画をつくれよということをおっしゃっていただいた先生でございます。政治的に考えてはいけないよということでございます。

リニア中央新幹線の候補地が三つあるという、三つを一つに絞るといふか、一つずつ落ちていっていただくとありがたいのですが、議員、いかがでございますでしょうか。三が二になり、一になれば奈良県はまとまったということになりますのでどうぞご検討も進めていただき、お勧めするわけではございませんが、そのように自然となればいいなと、素直な計画になれば。